

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772401325		
法人名	有限会社 藤サービス		
事業所名	グループホーム長尾		
所在地	大阪府枚方市長尾元町1丁目33-12		
自己評価作成日	平成 24 年 5 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成24年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成 24 年 6 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成13年7月『グループホーム長尾』を設立、18年には『共用型デイサービス』その後、空き室を利用してのショートステイもスタート。地域密着型の理念を大切に《通えて・泊まれて・住める》介護サービスを実施しています。開設11年・利用者の方々の高齢化に伴い医療面を重視、定期的な往診（内科・心療内科・泌尿器科・歯科・鍼灸院）や訪問看護ステーションとの連携もついています。又、看護師を配置し主治医指導の下、家庭的な雰囲気の中で『その人らしさ』を大切に、明るく健康な生活が送れるよう、さらに、ご本人・ご家族の希望によっては限りなく最後まで…看取り…寄り添った支援をさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最近の傾向として、グループホームが少しずつミニ特養化していく中で、開設後11年の今も、家族的な支援の共同生活が行われている民家改装型の事業所を訪問すると、そこにグループホームケアの原点を見ているような気がする。5年ぶりの訪問であったが、まだお元気な利用者にも再会できた。そのことは、この事業所の介護サービスの質の高さと無縁ではない。職員の笑顔と優しい言葉、礼儀正しく、気軽に話しやすい職員がいる当事業所の特長は『利用者の気持ちを尊重し、受容した対応。ここで生活して良かったおもえる支援。終末期ケアへの取組。人を思いやるハートを持った職員たち』である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で共有する為、研修や職員会議等で取り上げる事で、「日常的な支援」に生かせるように努めている。	理念を「明るく穏やかな生活を共に送りたい」とし、通えて・泊まれて・住めるんです、をキャッチフレーズとした地元密着した介護サービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事や書道展参加等の支援を行ったり健康体操、大正琴ミニコンサート、中学生の来訪、福祉体験学習の受け入れ、利用者のご友人、教え子さん来訪等地域の方々との交流を大切に支援している。	事業所と地域との関わりを大切にした取り組みがされている。利用者の地域行事への参加、ボランティアの受け入れ、子供たちの体験学習の受け入れ等々、過去11年間の努力が実って来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(包括、区長、民生委員、近隣の方、ご家族等の参加)で、独居老人を含む高齢者の方々の情報交換を行ったり、又近隣の高齢者の方々を行事やイベントにご招待等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間開催日を公表し、地域包括支援センター・区長・ボランティアや家族代表の参加により、年6回実施。利用者やサービスの実態・生活状況の報告・意見交換や評価・助言を頂くことで、より良いサービス向上につなげている	会議開催の年間スケジュールを立て、メンバーが予定を立てやすようにしている。サービス評価・自己評価の説明、高齢者介護全般について出席者との意見交換を行って、運営上の参考にしていく。	介護の質向上を目指した、職員の取り組み事例等も紹介して、介護職を広く理解してもらおう場、あるいは情報発信の機会として活用されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のHPを閲覧したり、必要かつ最新情報があれば、担当者に直接質問や説明を求め、ヒヤリングを受けたりしている。又、業務上、判断が難しい事等も、役所のアドバイスを求める等、連携に努めている。	市の高齢社会室とは開設当時からコンタクトを取り合う関係にあり、運営上の課題や利用者対応上の相談を必要により行う等、行政サイドと連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者以下、すべての職員が、いかなる行為が身体拘束であるのか深く受け止めている。スタッフ会議においても、時には議題にあげ、マニュアルに沿って拘束しないケアに取り組んでいる。	部内の勉強会や日々の申し送り時に防止事項を徹底している。「緊急やむを得ない身体拘束」に該当する内容は、家族の同意を得て対応している。帰宅願望の利用者には、職員が事前に状態を把握して、付き添うなどの配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する行為について、内部研修等の機会を持ち、介護の専門職としての常に高い意識を持ち防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修の議題として取り上げ、(職員会議などにも)制度の理解を学ぶ機会を作っている。又、ご家族・来訪者等の相談があれば、関連機関への橋渡しのできる体制はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には十分な時間をとり、質問・疑問に対して解り易く、理解・納得いくまで丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、管理者や施設長はご家族様来訪時に苦情提案等を聞き取り、その内容は運営に生かせる様、会議にも提案している。又、介護相談員の受け入れにより、意見を反映出来る機会も作っている。	家族が要望や意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。訪問し易い事業所、相談し易い事業所という家族の評価は、訪問調査で施設長、管理者、職員と話をしても、ざっくばらんな感じで話が出来た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議、スタッフ会議、その他諸会議において職員の意見や提案を聞く機会を多く設ける等、意見の反映に努めている。	事業所の運営状況や計画を職員にも説明し、サービス評価や改善課題についても職員が参加する等、代表者と職員間の距離を短くする努力や工夫が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設長と連携を図り、職員個々の努力や意見を反映をさせる事で、やりがいや向上心を持って働ける様、又、個々の評価が給与形態や労働時間に反映できる様、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施、必要と認められる外部研修には、積極的に機会を作り参加、研修後には、スタッフ会議で報告し、職員が働きながら、技術や知識を身につけていくことを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員間の研修で、意見交換等定期的に行っている。東部GH連絡会や地域交流会では、必要な情報を公開することで、資質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人とご家族に面会し、ご本人の日常の様子や、要望等を伺う様にしている。又ご本人に来訪して頂き、ホームの雰囲気馴染んでもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に安心して頂けるよう、不安な点や要望等については十分に時間を取って説明し、理解して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望、要望を理解し、ホームの出来る支援と対応を説明させて頂いている。又ご本人とご家族から伺った要望については、職員、各関連スタッフにも提供し、安心して入居出来る様、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の気持ちを傾聴し、「ご自分の出来ること、人にしてあげられることを大切に」互いに支えあって生活を送って頂けるよう、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、常にご家族を支援する気持ちを持っています。ご来訪時には、積極的に会話をし、良好な信頼ある関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や近親者の方々には、時間を問わず気軽に訪問して頂けるようご本人の希望により、外出されたい場所は元より、職員からも声掛けにより、外出の機会をつくるよ、努めている。	元先生の利用者に教え子達が訪問に来ることを大歓迎する等、本人の趣味や以前の仕事の関係を大切にして、利用者の社会とのつながりが途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中、利用者同士の関係に心配りし、居室を訪問したり、声掛けするなど、支え合える関係、環境作りを心掛ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の心身状態や個別の事情等で、サービスが終了した後も、これまでの関係性を大切にしながら(ご家族様、地域の方の訪問)ホームからも連絡を取り合う等、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. そのらしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所面接時、ご本人に対しての思いや、ホームでの過ごし方をお聞きし、又心身共に穏やかである時、お話しされていた事を参考にして、入所後も困難になられた時もその人の思いに沿って支援させて頂いている。	入所時に、家族から生活歴や本人の価値観、事業所での暮らしの方の希望を把握し、入所後は本人との会話から、さらに思いを汲み取って支援に活かしている。	利用者が生きてきた大正・昭和の時代背景と本人の生活歴をつないで、職員が介護支援に活用する方法等の検討も期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時、ご家族様から事実や習慣の情報を収集し個々の生活歴や、その背景を把握し自立した生活が送れる様、支援させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神面、身体面、有する能力を把握し、ご本人の出来る事、出来ない事を暮らしの中で発見し、総合的に判断出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回(必要時はこの限りではない)スタッフ会議を開き、個々の状態を確認している。状態に伴い、必要時は、ご家族、スタッフ、Drと話し合い、ケアプラン・モニタリングの見直しも行っている。	毎月のスタッフ会議で個々の利用者の状況や対応方法の提案等を、職員が意見を出し合ってケアプラン作りに繋げている。家族からの希望や意見をプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別記録をとり、毎日の申し送り事項として、スタッフ全員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況、ニーズの変化で(ショートステイ、通所介護、介護予防、医療連携)必要となるサービス支援は柔軟に対応出来る体制は整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食、買い物等、個々の心身の状態に合わせて実践している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の説明で意向を確認しながら、希望に沿って適切な、医療が受けられる様、支援している。	家族や本人の希望を優先した受診支援を基本にしている。事業所の早期発見、早期対応の医療支援体制と医療機関との連携は、家族に安心感を与えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は、日常的に利用者の心身状態について、連携を取っている。そして、申し送りにより、利用者が適切な支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から、退院時におけるまで、協力病院との情報交換は随時行い、退院については、日常の医療面で出来る事、出来ない事等の情報提供する事で医療との協力を得ながら早期退院に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向は、早い段階で、最後をどう送りたいのか、ご家族、主治医、職員が一同に集まり、ホームとして出来る事、出来ない事を十分に説明、話し合いを行うことで、重度化及び終末に向けて意見を共有している。	最近も終末期ケアへの対応が行われた。かかりつけ医のアドバイスを受け、家族との打ち合わせを数回にわたって行い、職員がチームを組んだ体制を作って、家族の希望に応えた。このような事業所の姿勢は家族として安心感がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医、看護師との連携を密にし、急変時や初期対応などは、マニュアルに沿って行動出来る様に職員に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法的に義務づけられた、防災計画に基づき、防災訓練、消火器の扱い方の訓練を行っている。地域及び近隣との協力体制は出来ている。今年、火災通報装置を3月現在で設置。消防検査も完了済である。	通報装置の点検、夜間想定訓練、日中の避難訓練を年間行事計画に組み込んで、実施している。運営推進会議で災害対策を議題に取り上げて地域の支援をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の認知症について理解を深め、声掛けや対応に注意している、誇りやプライバシーを損なわないよう、入浴、トイレ、着替えなどは、プライバシー保護のため、戸を閉める等配慮する。	職員一人一人が意識して、利用者への声かけ等、本人のプライドや羞恥心に常に配慮するよう心掛けている。適宜、職員同士も注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支援している。職員は、利用者の希望の表出を感じとりながら、自己決定において、選択出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GH長尾の理念を基本に、利用者一人一人の生活リズムを共有させ、共に生活を送っている。自由に自分のスペースを保ちながら暮らせるよう支援を行い、利用者がゆったりとした気持ちで生活出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれは個人の好みを配慮し、その方らしいおしゃれが出来るよう支援している。訪問美容師が個人の好みの髪型を家族や本人から聞き、望みに添うよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存能力を生かしながら、スタッフと共に食事づくりや、食器の片づけをお願いしている。食事メニューは調理師が個々に変え、個別メニューにも対応している。	本人の残された能力を、食事の準備や片づけの時に発揮して貰うように促している。職員も一緒に談笑しながら食事する風景は家庭そのものの雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と共に、季節に応じた食材を取り入れ、メニューを作成している。又、利用者のADLの変化や、体調に配慮しながら、食事が楽しくなるよう支援している。食事摂取量や水分摂取量にも心配りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。介助が必要な利用者には、歯ブラシ、RDガーゼを用いる等、個々のケアを行うようにしている。又、定期的に歯科医の訪問診療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握と尿量、その他の状況に応じた支援に努め、残存能力を生かし、オムツの使用もなるべくしないようにしている。	利用者個々の排泄パターンや内容を把握した上で、出来るだけオムツに頼らない習慣作りを目指し、事前の声かけによるトイレ誘導、食事内容、散歩などの運動を関連付けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を基に、便秘にならないよう、スタッフと看護師で排泄量を管理している。便秘予防として、適度な機能訓練を行ったり、栄養士による献立は繊維質の多い食事摂取にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望により、入浴回数、時間帯、曜日や体調等を考慮しながら、楽しめるよう支援を行っている。	利用者の希望に沿った入浴支援をベースにして、ゆっくり落ち着いた入浴、体調管理と清潔保持、に注意しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者、一人一人の睡眠時間を把握し、夜間の睡眠時間の少ない利用者もいるが、昼夜逆転にならないよう、生活リズムや臥床時間等には十分配慮する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師・介護職により、薬の管理を行っている。薬の説明書はファイルリングし、介護職員がいつでも確認出来るようにしている。利用者に変化があった時は、施設長・看護師と連携し、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味を生かした、レクリエーションや個々の力を活かしたレクリエーションの取り組みに心掛けている。又利用者それぞれの好みに合わせ、話題を提供したり、時にはその方と、1対1のカードゲームをすることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出入り口は自由にし、利用者の希望があれば、いつでも外出支援が出来る様にしている。外出時にはご本人の意向や希望を大切にスタッフも同行する等の外出支援を行っている。	本人の体調・気分と天候を見ながら戸外に出かける支援に努めている。初詣、お花見、菖蒲散策、買物ツアー等を年間計画に組込んで、楽しみのある外出行事を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて支援を行っている。自分でお金の管理をされる方もおられるが、出来ない方は普段の買い物でお金を使って頂く事で社会参加して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が、電話、手紙等のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に居心地のよい共用空間には配慮している。利用者にとって、不快な音、又は光などは、カーテンで微調整し、浴室、トイレなども不快感がないように気をつけている。又湿度にも十分に気をつけている。	共用空間は広いとは言えないが、それぞれに工夫があり、家庭的な雰囲気づくりに配慮されている。居間にはお茶の道具等も飾られているので、利用者にとって変化のある暮らしへの支援に努めている様子が分かる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室で利用者は自由に過ごされている。キッチンにも自由に出入りが出来るスペースを確保し、利用者同士で思い思い過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具、生活用品、写真等、ご家族や利用者と一緒に相談しながら、本人が居心地よく過ごせるように、ご家族を巻き込んでの工夫をしている	職員は家族にお願いし、協力を得ながら、利用者の気持ちが落ち着く部屋作りを支援している。家具、写真、馴染みの品物が持ち込まれている。部屋は清潔で気持ちが良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能を活かし、安全、転倒防止、常に見守りを怠らず、自立した生活を送れるよう、又過剰なサービスにならない様に支援している。		